

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

安曇野市教育委員会学校教育課
教育指導室

「令和7年度全国学力・学習状況調査」が4月17日に行われ、市内小中学校全17校で実施されました。その結果が7月22日に公表されましたので、その概要を報告します。

今後は、安曇野市教育委員会として教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と協働して組織した学力向上推進委員会にて結果の詳しい分析・考察を行ってまいります。

調査の概要

○調査の名称 令和7年度全国学力・学習状況調査

○実施日 令和7年4月17日（木）

中学の理科は4月14日（月）から17日（木）に実施

○実施学年 小学校6年生（10校、721人）

中学校3年生（7校、730人 理科は731人）

○調査の内容

① 教科に関する調査

・小学校…国語、算数、理科（3教科）

・中学校…国語、数学、理科（3教科）

※ 中学理科は一人一台端末を用いて、共通問題、個別問題（非公開）で実施。

② 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査

各教科の学力状況

●傾向と課題

各教科の全体の平均正答率をみると、小学校では、県や全国と比べて「大きく下回る」から「ほぼ同じ」という結果でした。中学校では、県や全国から「やや下回る」から「やや上回る」という結果でした。

具体的には、小学校の国語は全国を下回り、県を少し下回りました。算数は全国を大きく下回り、県を下回りました。理科は全国を少し下回り、県とほぼ同じという結果でした。中学校の国語は全国と県を少し上回りました。数学は全国を少し下回り、県を少し上回りました。理科はIRTスコアで結果が示されていますが、全国を少し上回り県とほぼ同じという結果でした。

正答数の分布を詳しくみると、小学校では、国語は上位層がやや薄い状況です。また、算数では下位層の割合がやや高く、上位層の割合が低くなっています。理科では中間層から少

し下位の層がやや厚くなっています。中学校では、国語は下位層がやや薄くなっています。数学では下位層がやや薄くなっているものの、上位層も薄い状況です。理科の IRT スコアでは、全国に比べて中間層がやや厚く、下位層がやや薄くなっている状況です

内容や領域面ごとに全国と比べてみると、小学校では、国語の「情報の扱い方」や算数の「数と計算」・「変化と関係」、理科の「生命を柱とする領域」で平均正答率が低い傾向があり、どこに課題があるのかを見極めていく必要があることが分かります。中学校は全体的に良好な状況ですが、数学の「式と計算」で全国に比べ開きが大きく、理科は内容・領域別の資料の提示はありませんでしたが、公開された問題を分析すると、「地球を柱とする領域」で平均正答率が大きく上回りました。その他の領域ではほぼ同じ結果でした。

なお、現在の中学 3 年生の結果を小学校 6 年時の結果と比較すると、国語、数学ともに、全国と比べて数値を伸ばしていることが分かります。理科は小学校の時とほぼ同じ数値を維持しています。

※ IRT スコア 様々な難易度の問題の解答状況から生徒の学力を推定し、500 を基準とした得点で表したものの。

【全国や長野県との平均正答率等の比較】

【小学校 国語】

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	▽▽	▽
言葉の特徴や使い方に関する事項	○	○
情報の扱い方に関する事項	▽▽▽	▽▽
我が国の言語文化に関する事項	○	○
話すこと・聞くこと	▽▽	○
書くこと	▽	○
読むこと	▽	○

【小学校 算数】

内 容	全国との比較	県との比較
算数全体	▽▽▽	▽▽
数と計算	▽▽▽	▽
図形	▽▽	▽▽
測定	○	○
変化と関係	▽▽▽	▽▽
データの活用	▽	○

【小学校 理科】

内 容	全国との比較	県との比較
理科全体	▽	○
エネルギー	▽	○
粒子	▽	○
生命	▽▽	▽
地球	○	○

【中学校 国語】

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	☆	☆
言葉の特徴や使い方に関する事項	☆☆	☆
情報の扱い方に関する事項		
我が国の言語文化に関する事項		
話すこと・聞くこと	☆☆	☆
書くこと	☆☆	☆
読むこと	☆	○

【中学校 数学】

内 容	全国との比較	県との比較
数学全体	▽	☆
数と式	▽▽▽	○
図形	☆	☆☆
関数	○	☆
データの活用	☆	☆☆

【中学校 理科】 IRT スコアでの比較 斜線部 資料の提示なし

内 容	全国との比較	県との比較
理科全体	☆	○
エネルギー		
粒子		
生命		
地球		

【中学校 理科】 公開されている 22 問の平均正答率との比較

内 容	全国との比較	県との比較
理科全体	☆	○
エネルギー	○	○
粒子	○	○
生命	○	○
地球	☆☆☆	☆☆☆

※ 表中の記号の表す内容（正答率に対して）

☆☆☆…大きく上回っている（+4.0 以上）	☆☆…上回っている（+2.0～+3.9）
☆…少し上回っている（+1.0～+1.9）	○…ほぼ同じ（±0.1～±0.9）
▽…少し下回っている（-1.0～-1.9）	▽▽…下回っている（-2.0～-3.9）
▽▽▽…大きく下回っている（-4.0 以下）	

IRT スコアでの比較（中学校理科）

☆☆☆…大きく上回っている（+40 以上）	☆☆…上回っている（+20～+39）
☆…少し上回っている（+10～+19）	○…ほぼ同じ（±1～±9）
▽…少し下回っている（-10～-19）	▽▽…下回っている（-20～-39）
▽▽▽…大きく下回っている（-40 以下）	

【小学校の傾向と課題】

国語では、全国や県と比較して、「言葉の特徴や使い方」や「我が国の言語文化」に関する設問では、安曇野市の児童はほぼ同程度の正答率を示しており、言葉の変化や使い方に関心をもっている様子がうかがえます。また、無回答率が全国よりも低かったことから、設問の意図を理解し、自分の考えを表現しようとする意欲が高いことも読み取れます。

一方で、文章と図表を関連付けて必要な情報を読み取る設問においては、正答率が最も低く、情報を目的に応じて読み取る力の育成が課題となっているため、文章と図表を関連付けて読む力や、情報の選択力を高める指導が求められます。

算数では、平均正答率は全国を大きく下回り、県を下回る結果となりました。正答数分布の傾向は、全国や県と比べると下位層の割合がやや高く、上位層の割合が低くなっています。

領域別で見ると、「測定」は全国、県とほぼ同じ結果でした。一方、「数と計算」「変化と関係」は全国を大きく下回り、「図形」も全国、県を下回る結果でした。

設問別で見ると、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」設問【4】(2) は全国を少し上回り、県を上回る結果でした。一方、「数直線上で、

1 の目盛りに着目し、必要な単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」設問【3(3)】、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる」設問【4(4)】は特に全国、県を大きく下回る結果でした。分数の学習では、分数が単位分数の幾つ分かで表すことを習得するため、分数とその表し方に関わる数学的活動を充実させること、また割合の学習では、百分率を倍を使って捉え直し表現ができるようになるため、日常生活の場面を設定した学習問題を多く扱っていく必要があります。

理科では、全体の平均正答率は全国を少し下回り、県とほぼ同じという結果となりました結果となりました。

領域別にみると、「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」では、全国平均を少し下回り、県平均とほぼ同じでした。「生命を柱とする領域」では、全国平均を下回り、県平均を少し下回りました。「地球を柱とする領域」では、全国平均、県平均とほぼ同じという結果でした。

設問別にみていくと、「発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」設問【3(3)】、「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる」設問【3(4)】は、全国を大きく下回り、県平均を下回りました。予想や仮説を基に、変える条件と変えない条件を区別しながら、解決するための観察、実験の方法を計画する活動を充実させていく必要があります。また、複数の自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を捉え、問題を見いだし、表現する活動を充実させていく必要があります。

【中学校の傾向と課題】

国語では、全ての領域で全国を少し上回る～上回る結果となりました。県との比較では、「読むこと」の領域で、ほぼ同じ結果となり、他の3領域は県を少し上回る結果となりました。また、問題形式では、短答式と選択式の形式で全国・県を少し上回る～上回る結果となり、記述式は全国を少し上回り、県とほぼ同じになりました。

【4一】「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える」設問では、全国・県を大きく上回りました。【1一】「文脈に即して漢字を正しく使うことができる」設問でも全国・県を大きく上回っていることから、正しい漢字を判断して選ぶことができる力を伸ばしている学年であることがうかがえます。

一方で、【3一】「表現の効果について、根拠を明確にして考える」設問では、全国・県を少し下回りました。問題内容を読み取る力がありますが、適切な表現の効果について捉えることができる力をさらに伸ばしていけるとよいことがわかりました。引き続き、表現の工夫とその効果について検討し、自分なりの意味付けをすることができるような学習活動を行うことが必要です。

数学では、県の平均正答率と比較して「数と式」の領域はほぼ同じでしたが、「関数」の領域で少し上回り、「図形」と「データの活用」で上回っている結果となりました。

【9(3)】「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」設問では、全国と県を大きく上回りました。また、無回答率も全国と県を下回っており、平行四辺形になる条件について知識を身につけているだけではなく、その条件がその問いではどの辺が当てはまるのか見抜く力がついていることがわかります。

一方で、【1】「素数の意味を理解しているかどうかをみる」設問では、県の平均を下回り、全国の平均を大きく下回りました。1年生で学習した素数を再度扱うのが3年5月の因数分解になることで、忘れてしまっている生徒が多いことが課題であり、素数を扱う学習問題を充実させていく必要があります。

理科では、公開されている問題の平均正答率で、すべての領域において、全国と県をほぼ同じ～大きく上回る結果となりました。特に、「地球を柱とする領域」については、全国を大きく上回る結果となりました。「気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探求の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる」設問【9(1)】は、全国や県を大きく上回り、無回答率も下回っています。記述の中から正答である条件をとらえることができていたことがわかりました。

一方、「仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかを見る」設問【3(1)】では、全国および県を大きく下回る結果となりました。電気回路の基本的な知識及び技能が身につけておらず、仮説が正しい場合の結果を適切に予想することに課題があると考えられます。他の領域についても、基本的な知識・技能の定着できる活動を行っていくことが必要です。

児童生徒質問項目の回答から見た生活の諸側面や学習状況等

●傾向と課題

小学校・中学校ともに、学習状況や生活の諸側面に関わる児童生徒質問項目の多くは、肯定的な回答をした割合が全国や県の平均を上回っており、安曇野市の児童生徒の良さがうかがえます。

生活面では、過去の調査結果と同様に「朝食を毎日食べている」や「起床・就寝時刻が一定している」という回答が多いことから、ほとんどの児童生徒が規則正しい生活を送っていることがわかります。

また、「人が困っているときは、進んで助けますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対しては90%を大きく超える児童生徒が肯定的な回答をしており、思いやりの心が育っており、更に社会貢献の意識が芽生えていることがわかります。「自分には、よいと

ころがあると思いますか」には約 85%の児童生徒が肯定的に答えており、自己肯定感が高い傾向にあります。

さらに、小学生の「将来の夢や目標を持っていますか」(84.5%)、中学生の「友達関係に満足していますか」(92.3%)や「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」(92.7%)などに対する肯定的な回答も全国や県に比べて多く、将来の夢や目標を持ちながら、充実した日常生活を送っていることも、安曇野市の児童生徒の特徴となっています。

学習に関連した項目では、読書好きな児童生徒が多く(小 81.9%、中 72.0%)、自然とふれあう経験を日ごろからよく行っている(小 90.6%、中 75.7%)ことも全国や県に比べて高い数字になっています。

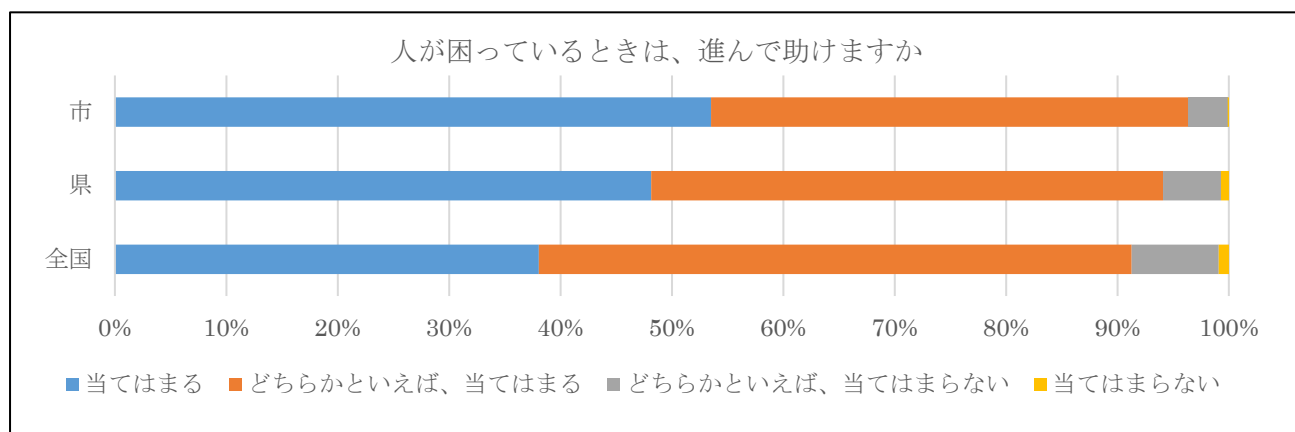
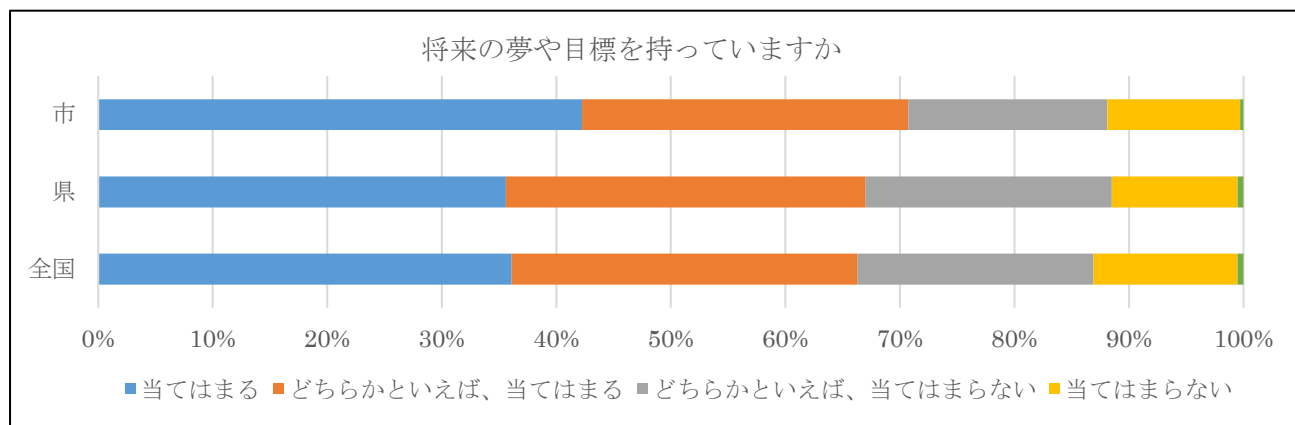
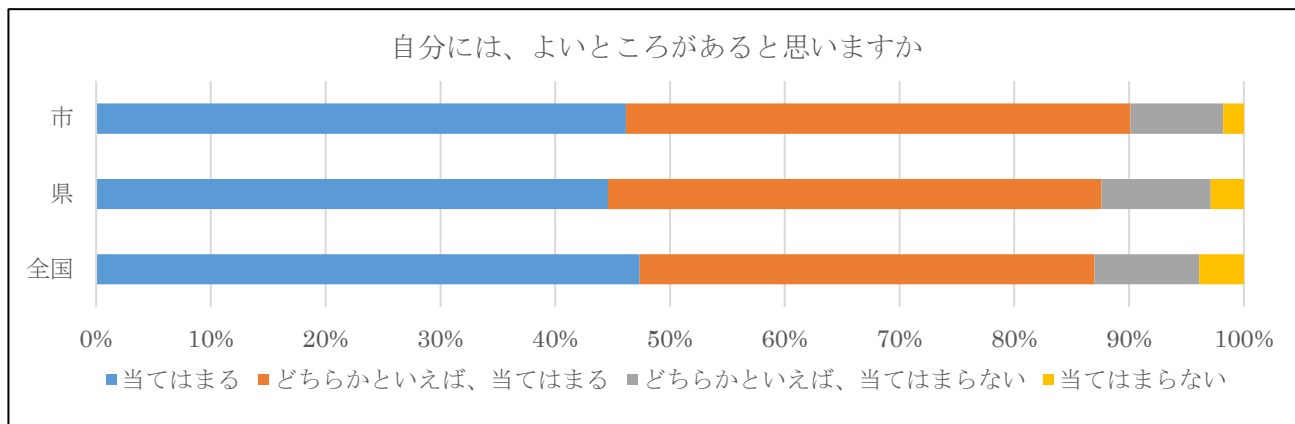
タブレットやPCなどのICT機器を活用した学習については、小学校では週3回以上利用している割合は約64%で県と同じくらいの頻度ですが、全国と比べるとやや少ない傾向にあります。ICT機器を使った学習のよさについて「自分のペースで理解をしながら学習を進めることができる」と回答した児童は約87%にのぼり、県や全国を上回っており、個別学習を進めていく上で有効であることがわかります。中学校では、ICT機器を週3回以上使う割合は83%で県や全国を上回っており、授業で活用されていることがわかります。ICT機器を使ってプレゼンテーション(発表のスライド)を作成できる割合は約83%で県や全国を上回っています。授業でのICT機器活用が日常化しており、文章作成や情報収集など、ICT機器を活用した情報活用の技能が身につけていることがわかります。

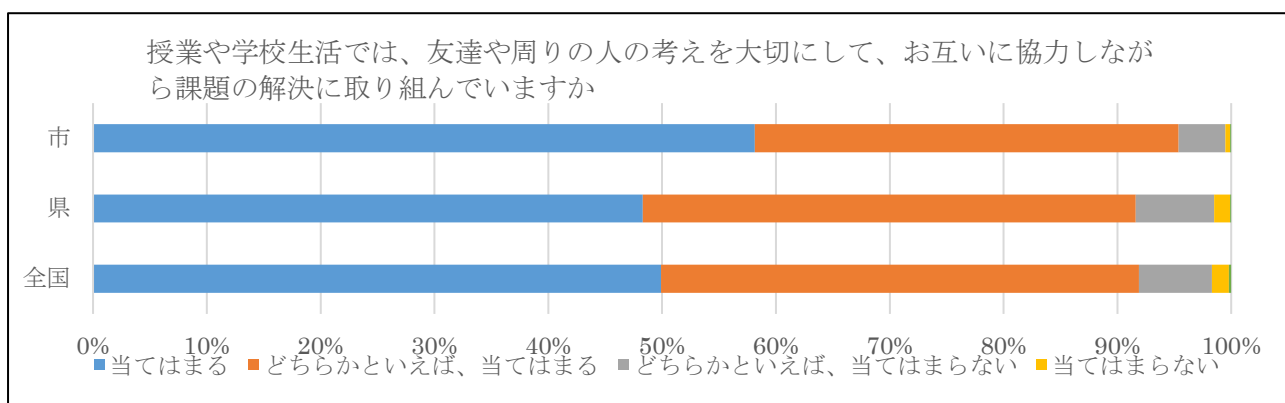
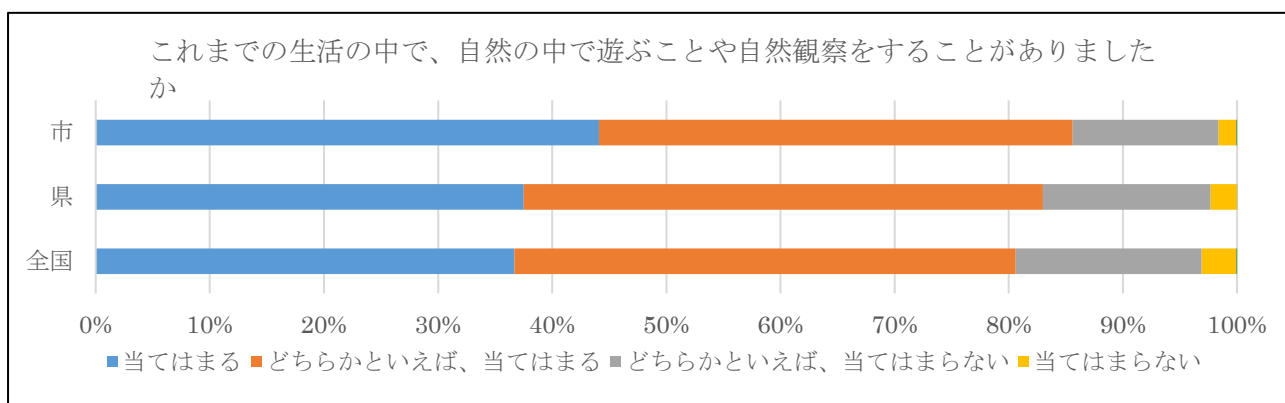
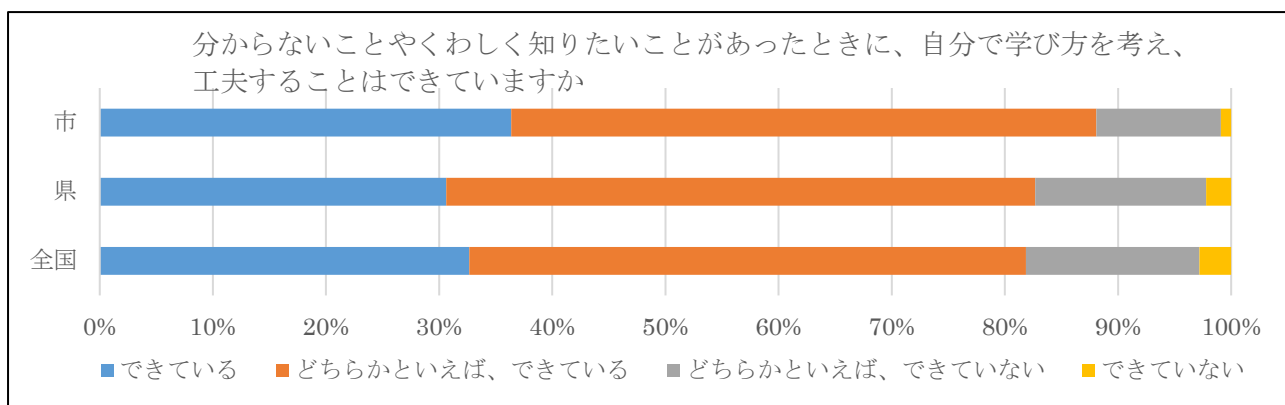
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況については、「5年生までに(1、2年生の時に)受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で約86%の児童生徒が肯定的な回答をしており、課題解決に積極的に取り組んでいる傾向がみられます。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」児童生徒の割合は全国、県を上回っており(小 87.9%、中 82.9%)、課題解決の学習に取り組む中で、学習を自ら進める土台ができており、主体的に学習を進めることができる児童生徒が育っています。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」児童生徒は約95%にのぼり、対話的な学習も定着していることがうかがえます。

一方で、安曇野市の児童生徒の平日の家庭学習の時間は、長い時間学習に取り組む児童生徒の割合が全国や県と比べて低くなっています。また、経年変化からは、小学校で1時間以上学習する児童や、中学校で2時間以上学習する生徒の割合が年々減っている事実もあります。ただ、必ずしも長時間学習することが、学力を定着させるとは言えないことも、今回の調査からわかっています。これまでも、安曇野市では家庭学習のあり方を検討し、各校では年度当初に「家庭学習のあり方」を冊子等にまとめ、児童生徒に示し、改善を図ってきてい

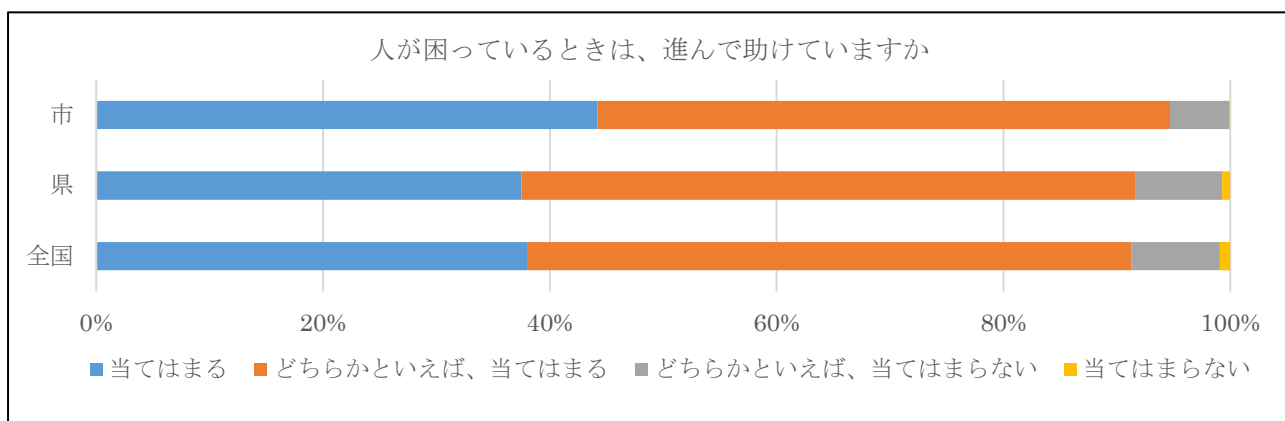
ます。家庭とも連携して、更に学力の定着を図るために、家庭学習のあり方について検討を進めていきます。

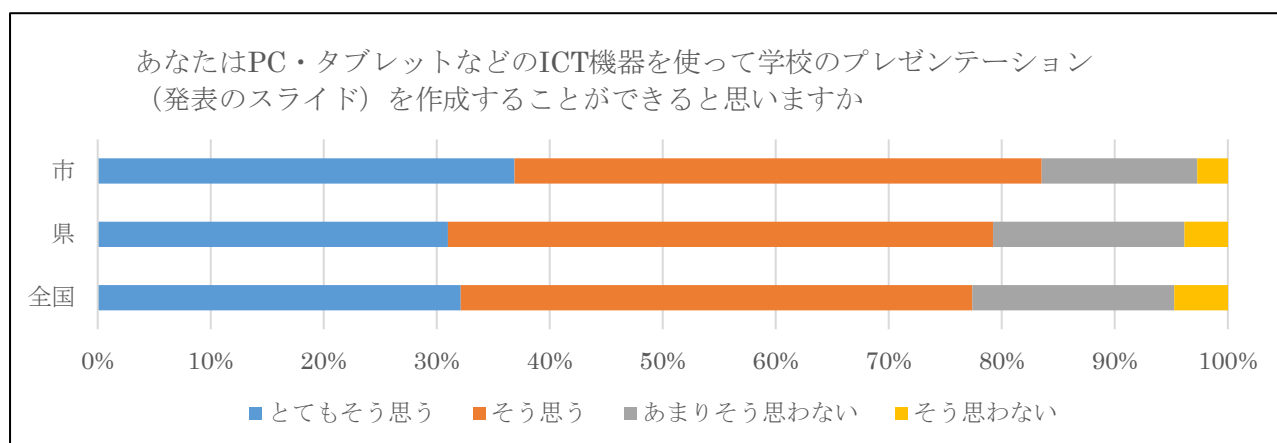
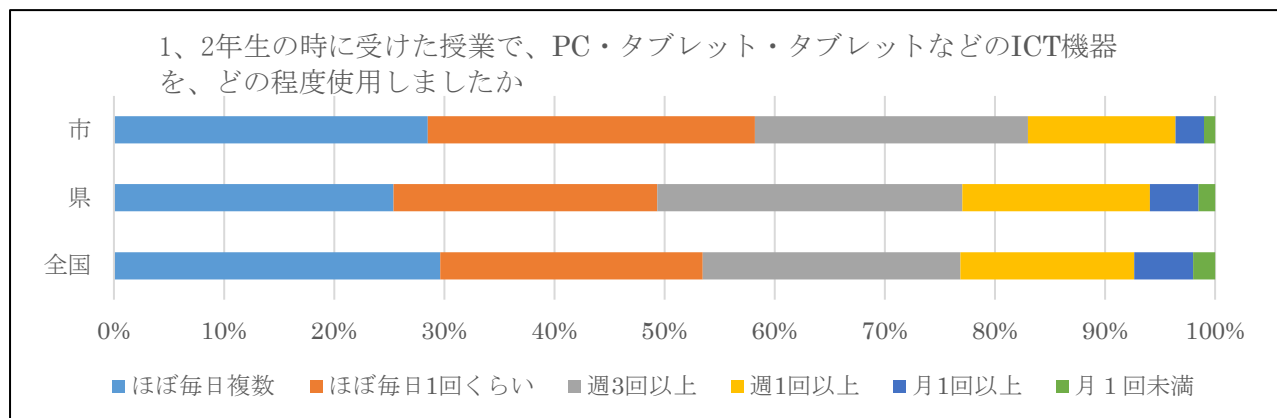
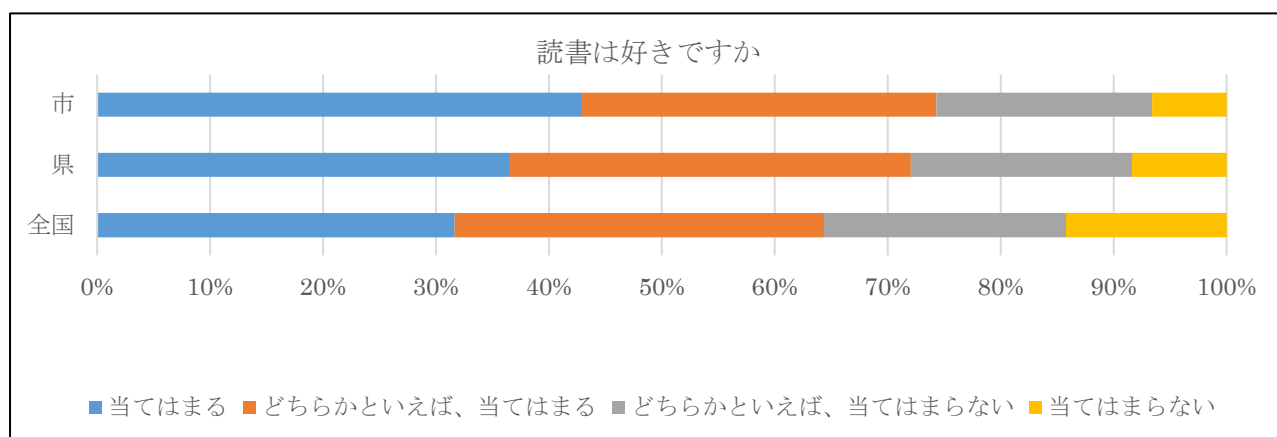
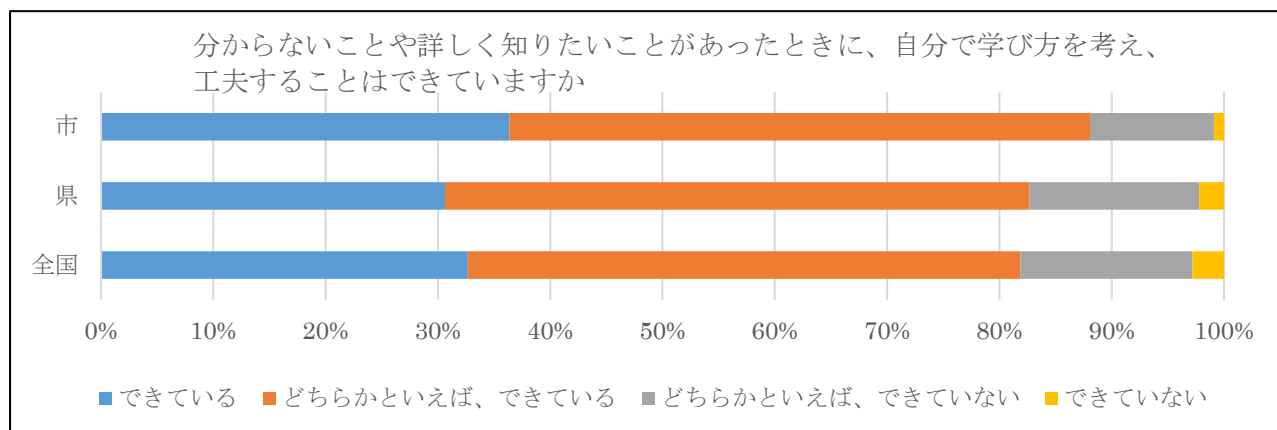
【市の小学校児童の良さが分かる代表的な質問のグラフ】

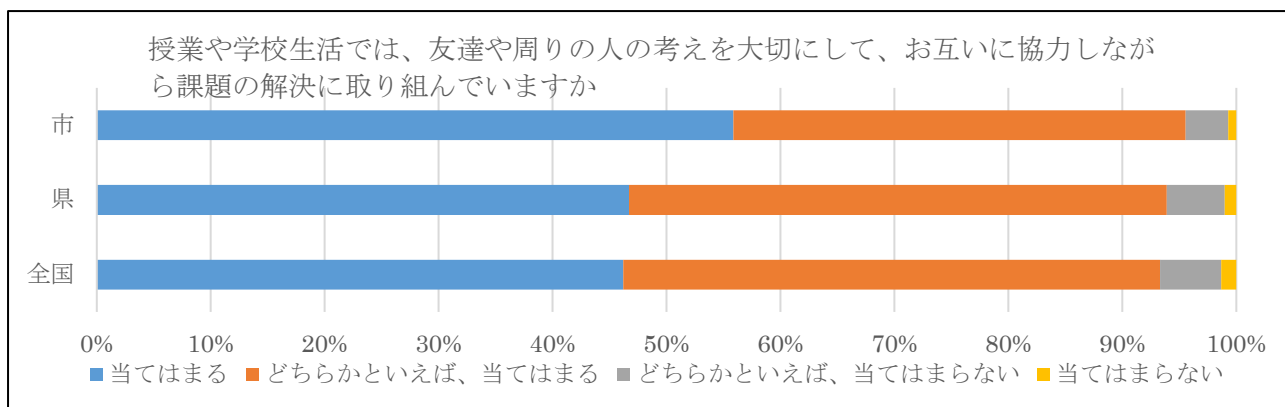




【市の中学校生徒の良さが分かる代表的な質問のグラフ】

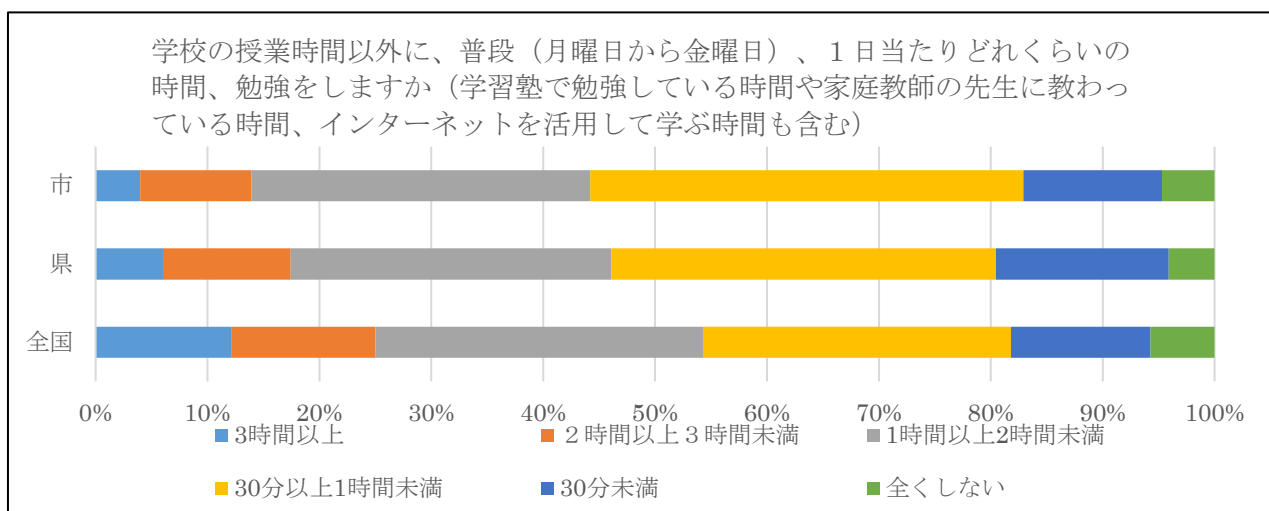




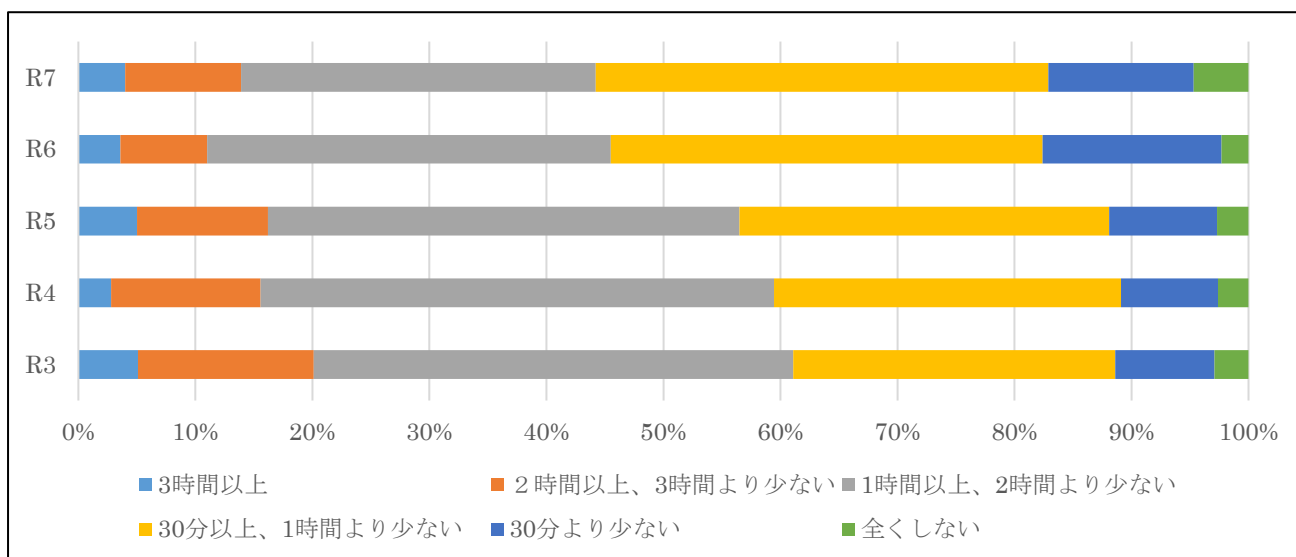


【市の児童生徒の家庭学習時間のグラフ】

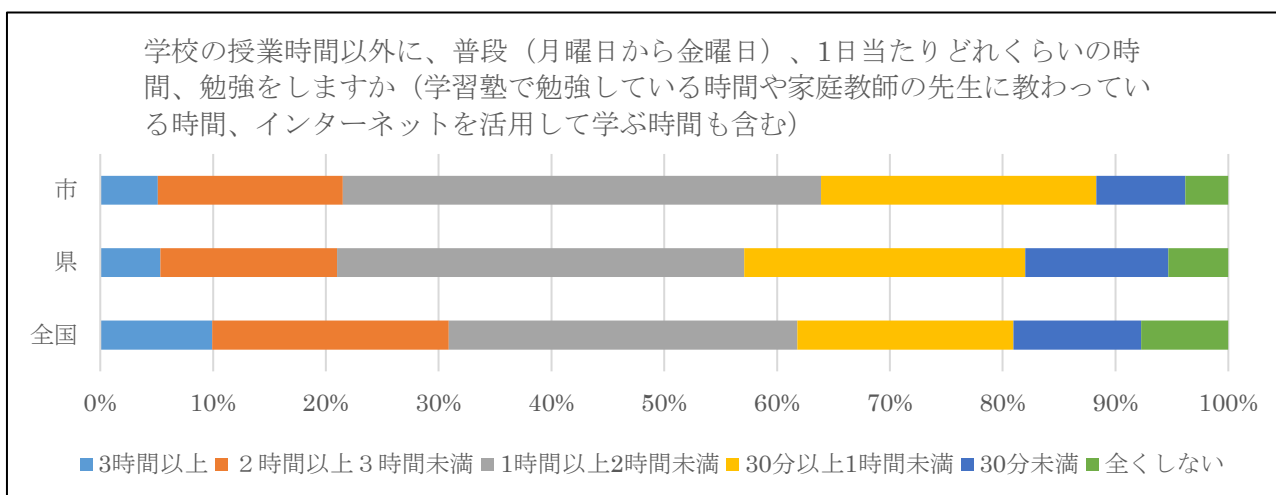
○小学生



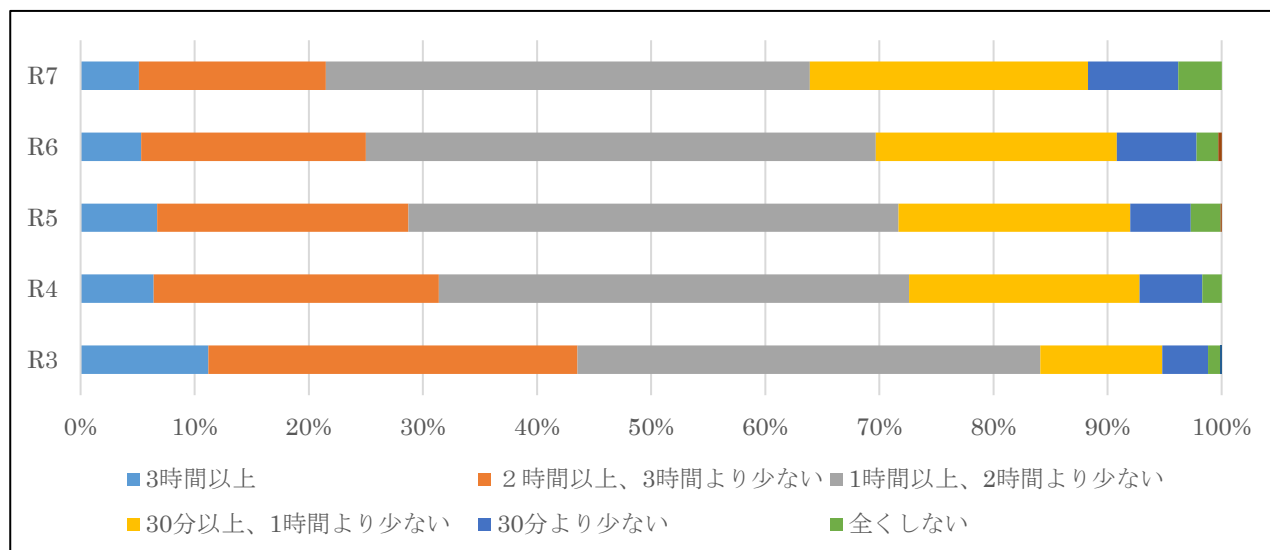
家庭学習時間の5年間の変化の様子



○中学生



家庭学習時間の5年間の変化の様子



比較的正答率が高い傾向にある子どもの学習や生活の様子

学力調査結果と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目において、より肯定的な回答をしたり特定の回答をしたりしている児童生徒の正答率が比較的高い傾向がみられました。

【小学校・中学校共通】

- ◇あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。
- ◇5年生までに（1、2年生のときに）受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- ◇授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。
- ◇授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題

の解決に取り組んでいますか。

◇算数（数学）の勉強は得意ですか。

◇算数（数学）の勉強は好きですか。

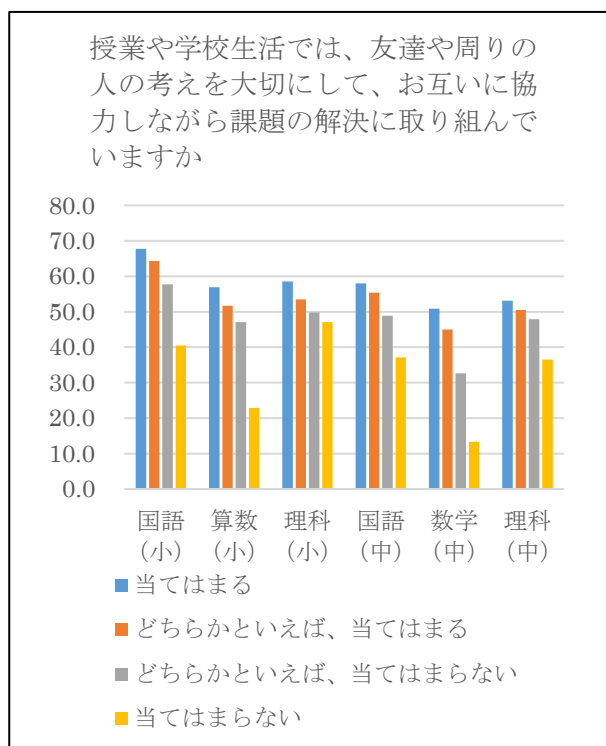
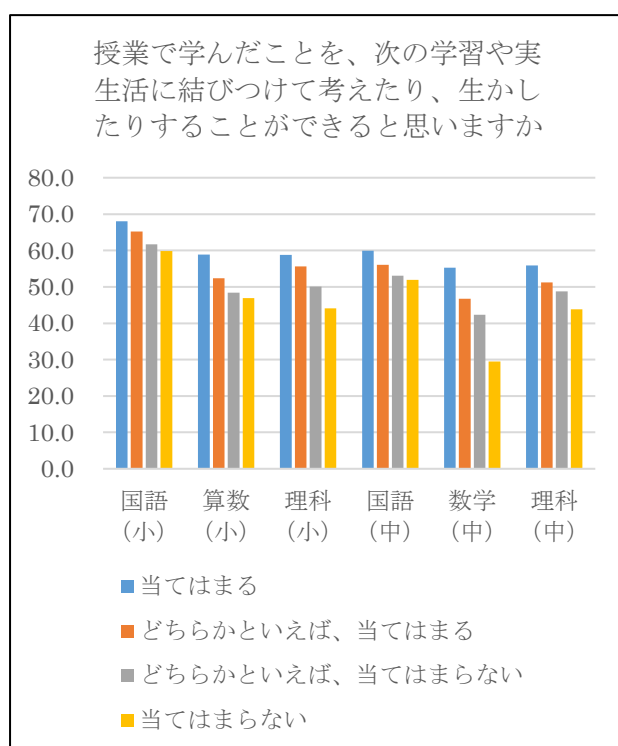
◇算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。

◇算数（数学）の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか。

◇算数（数学）の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。

◇算数（数学）の授業で、どのように考えたかについて説明する活動をよく行っていますか。

◇今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。（最後まで解答を書こうと努力したか答える設問）



※上のグラフは、設問に対してそれぞれの回答をした児童生徒の平均正答率等を示しています。中学の理科は、平均正答率が示されていないため、便宜上、示されている IRT スコアを 10 分の 1 の数値に換算してグラフを作成してあります。以下のグラフも同様です。

【小学校】

◇毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

◇わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫す

ることはできていますか。

◇地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

◇あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。

◇5年生までの学習でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。

（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。

（4）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。

（5）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。

◇5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

◇道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。

◇国語の勉強は得意ですか。

◇国語の授業の内容はよく分かりますか。

◇少数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか。

◇理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか。

◇理科の授業では、問題に対しての答えがどのようになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか。

◇理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。

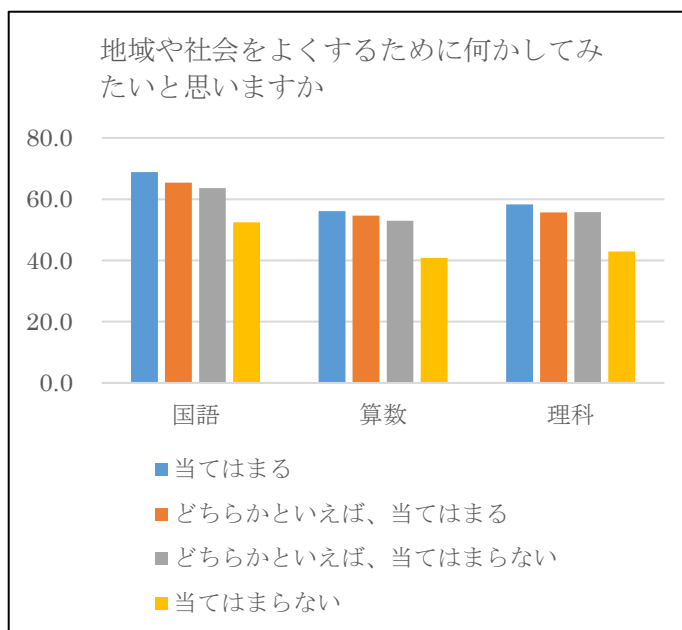
◇健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。

◇今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題に

ついて、どのように解答しましたか。（最後まで解答を書こうと努力したか答える設問）

◇今回の理科の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。（最後まで解答を書こうと努力したか答える設問）

◇解答時間は十分でしたか。（理科）



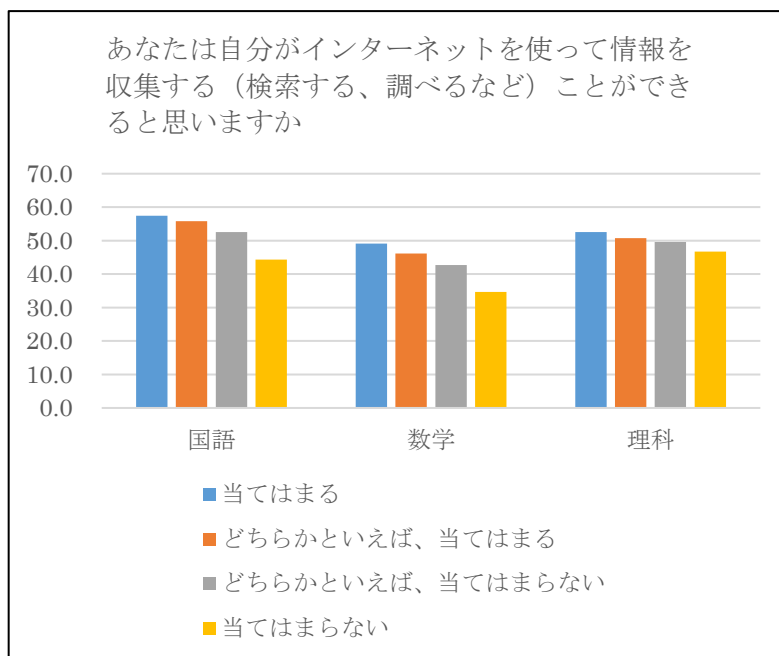
【中学校】

- ◇毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
- ◇先生は、あなたのよいところを認めてくれますか。
- ◇自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- ◇読書は好きですか。
- ◇あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。
- ◇あなたは自分がPC・タブレットのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。
- ◇1、2年生の時受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

- ◇1、2年生の時受けた授業では、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

- ◇学習した内容について、分かった点、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

- ◇先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。



- ◇国語の授業内容はよく分かりますか。
- ◇国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか。
- ◇国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるかについて、根拠を明確にして考えていますか。
- ◇国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか。
- ◇文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解することができますか。
- ◇理科の勉強は得意ですか。
- ◇理科の勉強は好きですか。
- ◇理科の授業の内容はよく分かりますか。

- ◇将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか。
- ◇理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか。
- ◇自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見出したりしていますか。
- ◇理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか。
- ◇理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか。
- ◇理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか。
- ◇今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。（最後まで解答を書こうと努力したか 答える設問）

調査の今後の活用

市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

市教育委員会は、

- （１）全国学力・学習状況調査の分析から見てくる児童生徒や学校の良さや課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。
 - ①国や県の動向を注視し、今日求められる学力とそれに対する学び方や指導・支援のあり方についての方向性を示します。（学力向上推進委員会など）
 - ②調査教科の市全体の「課題と具体的な改善の方向」を示し、授業改善に向けた提案をします。（学力向上推進委員会）
 - ③学校の願いに応じながら、教育指導室の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- （２）授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小中学校間の教職員の研修などを推進したりしていきます。
 - ①各校で開催される授業研究会や研修会に他校からも参加できるようにし、公開授業・研修会開催通知を、各校の協力を得て市内小中学校に発信していきます。
 - ②各校の優れた実践を市内小中学校に紹介していきます。
- （３）ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を活用した授業や家庭での効果的な利用方法等について、教職員の研修を推進し、各校の取組を支援します。
- （４）総合的な学習の時間などで、地域を扱った探求的な学びが展開できるように、各校を支援します。（拾ヶ堰見学の実施、安曇野の時間推進委員会による活動など）

各校は、

- (1) 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に活かすようにしていきます。そのために、以下の点に配慮します。
- ①明らかに課題があるまたは伸びている領域の問題を分析する。
 - ②正答数が低い（0～2問程度）児童・生徒の課題等を分析する。
 - ③当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、hyper-QU や CRT などの検査等と関連付けて分析し、全校の授業改善に活かせるようにする。
 - ④分析結果から、必要な補充・補完を計画し実施する。
- (2) 「児童（生徒）質問紙」や「学校質問紙」から見えてきた良さや課題を、学校全体で共有し、教育目標実現に向けて教育活動を進めます。その具体的な取組として、学習指導では、教職員が相互に参観し合い、指導方法等の改善に努めます。
- (3) 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題に気づき、自ら改善していくことができるように、一人ひとりの児童生徒とその家庭へ具体的な指導・助言などの支援に努めます。
- ① 児童生徒への支援
 - ・授業での振り返りを大切にし、課題を意識できるようにしたり、課題解決の見通しが持てたりするように支援します。
 - ・学校生活の中で、互いの良さを伝え合う場面を設けることで、友だちから刺激を受けたり、自分との違いに気づいたりするなかで、自分自身の成長に必要な課題を発見できるように支援します。
 - ② 家庭への支援
 - ・「家庭学習の手引き」を配布したり、保護者懇談会の機会をとらえ家庭での学習について助言したりすることで、保護者と連携し児童生徒を支援していきます。
- (4) 教育委員会と連携しながら、PC・タブレットなどのICT機器を活用した授業や家庭学習での効果的な利用に努めます。その際は、メディアリテラシーにも十分配慮しながら進めます。